

（1）共働のきっかけ・必要性

- 福岡市は全国的に見ても街中に豊かな緑地を守り残してきた自治体ですが、緑地の中には管理放棄によるヤブ化、不法投棄などが見られる場所もあります。
- これらの緑地は十分な管理があれば、市民の憩いの場や間伐材の利用など、身近な自然を享受できる場になります。
- 管理者である福岡市と保全・活用のノウハウを持つ NPO 法人グリーンシティ福岡の共働により、現在の福岡市にあった里山的な緑地の保全・活用を試行、展開しています。



（2）事業目的

特別緑地保全地区等をフィールドに、里山的な利活用の楽しさや技術を伝えること、近隣住民の合意を形成していくこと、それを支援する制度のあり方を検討することで、街中の緑地を現代の里山として再生することを目的としています。

（3）事業目標

2 年目となる令和 2 年度は「活用プログラムの開発と試行事業」「活用ガイドラインの普及事業」「既存団体の支援事業」を行いました。新型コロナウイルスによる影響があったもののない緑地での体験イベントを予定の回数実施し、自立的に活動する「活動団体数」の増加につなげることができました。また、活用ガイドラインは当初目標以上に印刷し継続して配布中。加えて、既存活動団体の現地での支援を行うことができました。

成果指標	事業実施前	目標	実績
福岡市内の特別緑地保全地区等で活動する団体数	約 10 団体	+2 団体	+1 団体
(同上) での市民が参加可能なイベント等の回数	約 40 回	+8 回	+8 回
活用ガイドラインの印刷・配布	-	500 部	5,500 部
既存団体への活動支援回数	-	3 回	3 回

（4）事業内容

1. 活用プログラムの開発と試行事業

○植物園里山ボランティア：南公園での保全活動（6 回／67 人）。



○浄水緑地森の手入れワークショップ：浄水特別緑地保全地区で、観察会、体験作業（計 1 回／22 人）と造園業者による枯れ木処理事業（1 回／6 人）を行いました。



2. 活用ガイドラインの普及事業

○活用ガイドラインの印刷・配布 (5,500部) と youtube 動画の作成・公開を行いました。

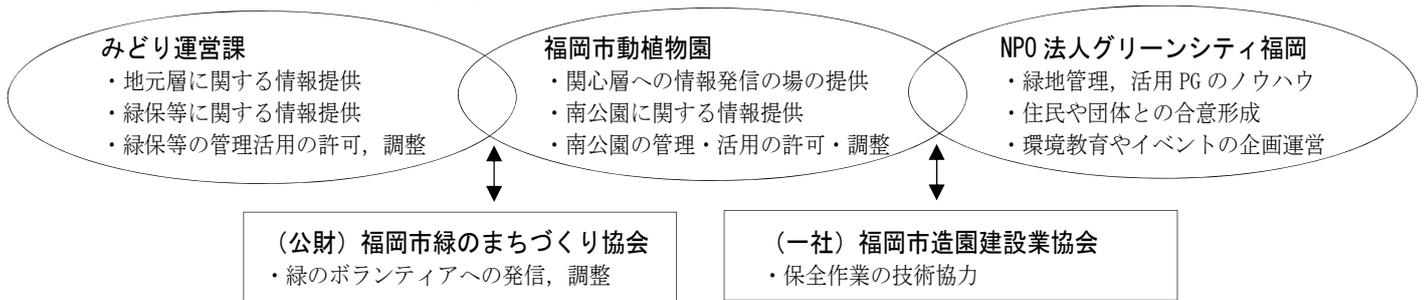


3. 既存団体への活動支援事業

○既存団体と連携したイベントや技術協力、活動への助言による支援を行いました (2箇所・3回)。



(5) NPOと市の役割分担



(6) 担当者の声・市民の声

○担当者：子どもの遊び場としての利用が見られるなど、市内の緑地の活用状況やその価値を再認識することができた。一方で近隣住民とのコミュニケーションなどで課題も多い。これからの緑地管理のあり方を、より多くの市民やNPO等との共働を通じて検討、試行していきたい。

○参加者：「もっと頻繁に参加したい」「子どもを連れてくるので、森がきれいになり安心」「草刈りなどいつでも協力します」「焚き火体験はなかなかできない」「森のこと知れてよかった」など。

(7) 翌年度への展開

○継続することでリピーターや経験あるボランティアが増えています。南公園での活動を拠点に関心層を増やし、市内緑地に森の手入れや活用の取り組みを増やしていくことができつつあります。